

住みたい、住み続けたいと思えるまちづくり

地域課題の解決に向けた新たな取り組みが進んでいます

市では、安全・安心でいつまでも住み続けたいと思える地域づくりに向けて、「市民が主役」という理念のもと、市民・地域住民組織・事業者・行政などが、共通の目標に向かって役割を分担し、それぞれの能力を生かしながら、力を合わせて地域課題の解決に取り組む「協働のまちづくり」を推進しています。

地域のまちづくり

地域では、地域の住民や各種団体によって組織された「まちづくり協議会」（高山地域では概ね小学校区単位、支所地域では支所単位の20地区に設置）が中核となり、町内会等と連携し多くの住民の参画を得ながら、地域の維持・改善・振興に向けて、地域の特色を生かした様々な取り組みが進められています。

【活動の例】

- （防犯・防災）防災訓練や防災講演会・子どもの登下校の見守り
- （健康・福祉）健康教室・ふれあいサロン（青少年育成）子ども体験教室・寺子屋
- （教育・文化）文化展・郷土学習
- （親睦・交流）夏祭り・運動会・敬老会

まちづくり協議会への市の関わり

市では、まちづくり協議会の主体的な活動を支援するため、総額2億5千万円の協働のまちづくり支援金の交付や事務所を提供しているほか、各地区のまちづくり担当職員が役員会などの議論の場に参加するなど、地域と共にまちづくりに取り組んでいます。

新たな支援策「モデル的事業」

平成30年度から新たな支援策として、まちづくり協議会が地域の課題解決に向けて実施する先駆的、効果的な事業を「モデル的事業」として認定し、事業実施に伴い更なる財政支援が必要な場合は、支援金を追加交付しています。



高山市協働のまちづくり推進会議の様子

モデル的事業は、全地区のまちづくり協議会の会長、市の関係部長、学識経験者で構成する「高山市協働のまちづくり推進会議」において、各まちづくり協議会から提案のあった事業を「地域の課題解決につながるか」などの点を踏まえ協議し、認定します。

また、モデル的事業は毎年、事業実施による効果等について「推進会議」において検証されます。

モデル的事業の紹介

◆若者参画促進事業



若者による座談会の様子

●地域の課題

地域活動に参画する若者が少なく、若者の意見がまちづくりに反映されていない。

●事業内容

若者を主体とした組織を設置し、若者の視点による課題の把握から解決に向けた取り組みの実践と人材の育成。

●実施団体と取り組み状況

丹生川まちづくり協議会

地域の若者で「丹生川まちづくり青年部」を設置。座談会を開催し、若者目線での地域の魅力と課題を整理。まちづくり先進地への視察やイメージを形にするための企画書作成の研修会などを実施し、協議会の理事会にて事業提案を行った。

◆地域拠点整備事業

●地域の課題

地域住民が気軽に集える場所や日ごろから開放されている地域活動の拠点が無い。

●事業内容

地域内の空き家、空き店舗を借り上げ、地域活動の拠点を整備。

●実施団体と取り組み状況

花里まちづくり協議会

地域内の空き家を借り上げ、「サロン花里」として整備。まちづくり協議会の活動拠点と地域住民の交流の場として開放し、各種講座や地域の子育て世代の交流を図る事業などを実施。



花里地区の地域拠点「サロン花里」